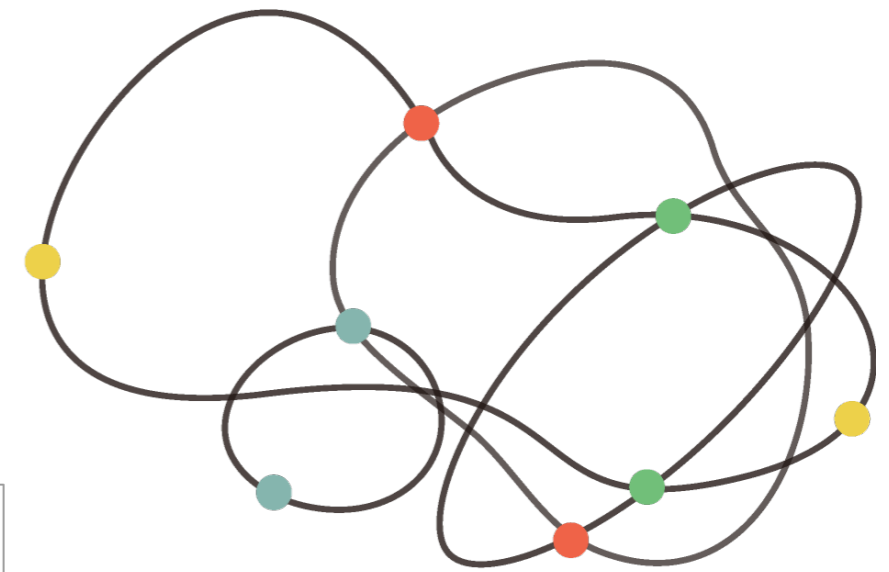


SHARING ECONOMY ビジネスの動向と 今後の課題



**SHARING
ECONOMY**
ASSOCIATION JAPAN

株式会社スペースマーケット コーポレート部 /

一般社団法人シェアリングエコノミー協会 シェアリングエコノミー認証制
度統括ディレクター

弁護士 石原 遥 平

SHARING SOCIETY 個人主役の経済へ。



日本経済は、大企業中心の設計だった。

教育、働き方、人生設計、まちづくりまであらゆる物事が、“大企業”という論理構造から逆算され、作られてきた。多くの日本人が、そのピラミッドの中で生きてきた。

しかし、これほどモノや情報が溢れ、技術革新が起こる時代に、その仕組みは賞味期限が切れている。

もっと他のやり方がある。その事実には、私たちは気づいている。

そこで生まれたのが、シェア。

シェアリングエコノミーというのは、これまでの延長にあるビジネストレンドではなく、**経済の主役を変えるパラダイムシフト**なのだ。

大企業中心の経済から、個人中心の経済へ。

シェアという発想が個人と個人をつなぎ、国、地域、NPO、企業、大学などが垣根を越えて、一人ひとりが主役になれる社会をつくっていく。

そんな“シェアリングソサエティ”こそが、次なる日本経済のコンセプトだと私たちは信じている

これからは個人をエンパワーメントする組織だけが生き残り、経済は画一的なものではなく、もっと関わる人の血が通った、手触りのあるものが、人や地域の数だけ生まれていく。

新しい時代の主役は、“誰か”ではない。

すべては、あなたのアクションから始まるのだ。

一般社団法人シェアリングエコノミー協会

団体名称：

一般社団法人シェアリングエコノミー協会

英語表記：

Sharing Economy Association, Japan

所在地：

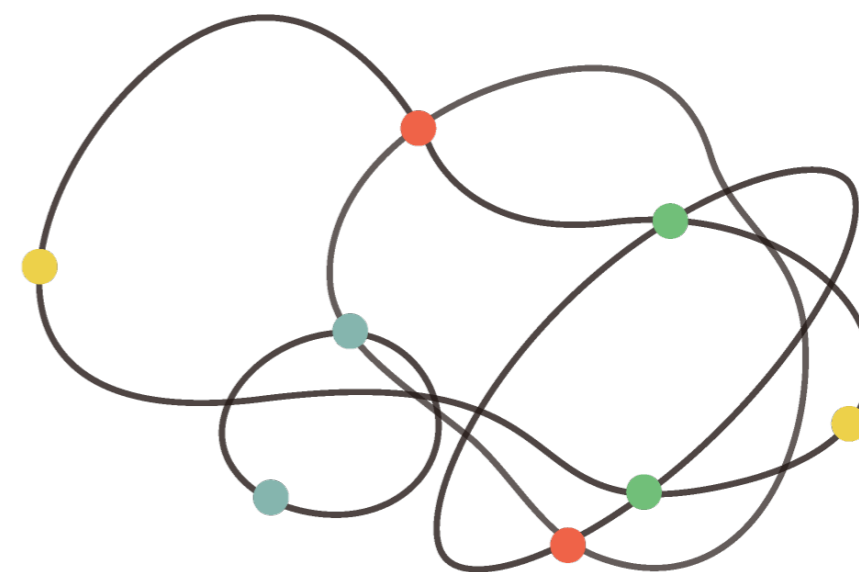
東京都千代田区平河町2-5-3 Nagatacho GRID

HP：<http://sharing-economy.jp>

お問い合わせ：info@sharing-economy.jp

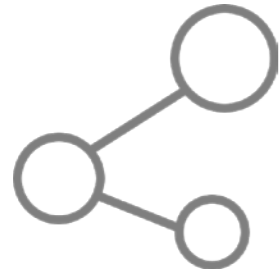
電話番号 03-5759-0306

設立：2016年1月15日

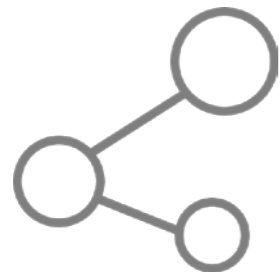


SHARING
ECONOMY
ASSOCIATION JAPAN

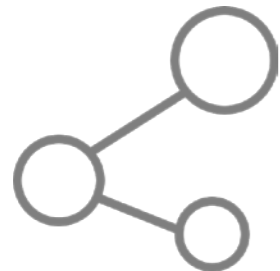
本日のTOPICS



そもそもシェアリングエコノミーとは
(社会に与える影響etc.)

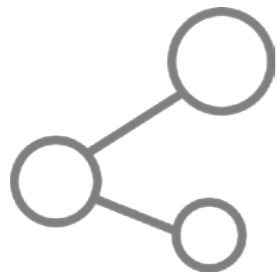


プレイヤー概観・先進事例の紹介



安全安心のための取り組み

本日お伝えしたいこと

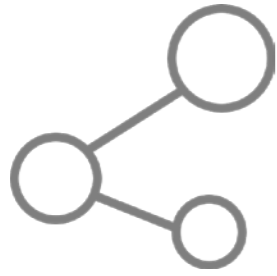


販売&預託ビジネス≠シェアリングビジネスであるため、直接的な影響は現時点では考えられない



シェアリングビジネス＝遊休資産（スキルなど無形資産含む）の有効活用であり、投資などとは性質が異なる

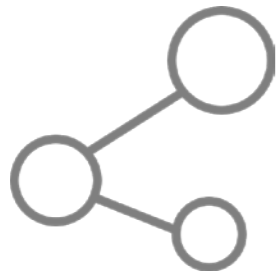
本日お伝えしたいこと



他方で、ビジネスの世界の動きは従前よりもさらに早く、従来想定されていなかったところにビジネスが生まれる傾向にある



特に、データは21世紀の石油とも言われる中、今後データビジネスがより拡大していくことが予想される

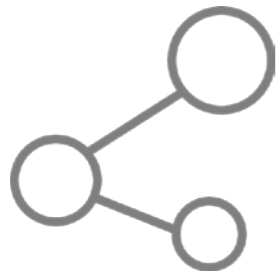


カーシェアリングなどの分野で新たなビジネスモデルが出てきており、従来のシェアリングエコノミーの枠に収まらないものも今後出てくることが想像に難くない

本日お伝えしたいこと



そこで、仮に何らかの規制を導入するとしても、まずは届出制にするなどできる限り事業者の負担を軽くしてイノベーションを阻害しないようにすべき



具体的には、独自の報告義務は不要、決算書の提出義務と代表者や住所変更の届出義務のみなど

そもそもシェアリングエコミーとは？

シェアリングエコノミーとは

インターネット上のプラットフォームを介して個人間でシェア（貸借や売買や提供）をしていく新しい経済の動き



シェア×空間

ホームシェア・駐車場・会議室



シェア×モノ

フリマ・レンタルサービス



シェア×移動

ライドシェア・シェアサイクル



シェア×スキル

家事代行・育児・知識・料理・介護



シェア×お金

クラウドファンディング

シェアリングエコノミーは
おもに5つに分類されます。

シェアリングエコノミーの立ち上がってきた経緯

ソーシャル
メディア

インターネットを介して発生してきた他人同士での繋がり、信頼感、安心。
レーティングシステム。

スマート
フォン

スペース・モノ・ヒト・カネなど有形・無形のもものが、スマホを通じてリアルタイムにつながる。
位置情報・決済システム。

シェアリングエコノミーとは

インターネット上のプラットフォームを介して個人間でシェア（貸借や売買や提供）をしていく新しい経済の動き



シェアリングエコノミーの市場規模

シェアリングエコノミーの市場

- 2018年度の経済規模は過去最高の1兆8000億円越え
- 2030年には11兆円の予測



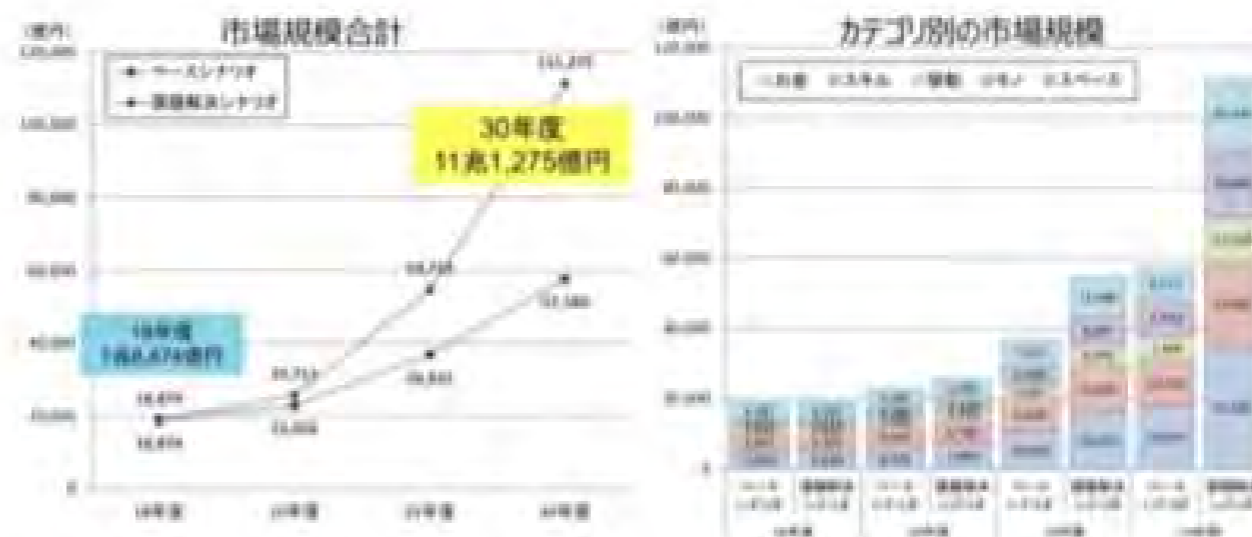
【1】市場規模 推計結果

18年度 市場規模は過去最高の1兆8,874億円 を記録。

30年度ベースシナリオ(現状のベースで成長した場合):5兆7,589億円

30年度課題解決シナリオ(成長の課題が解決した場合):11兆1,275億円

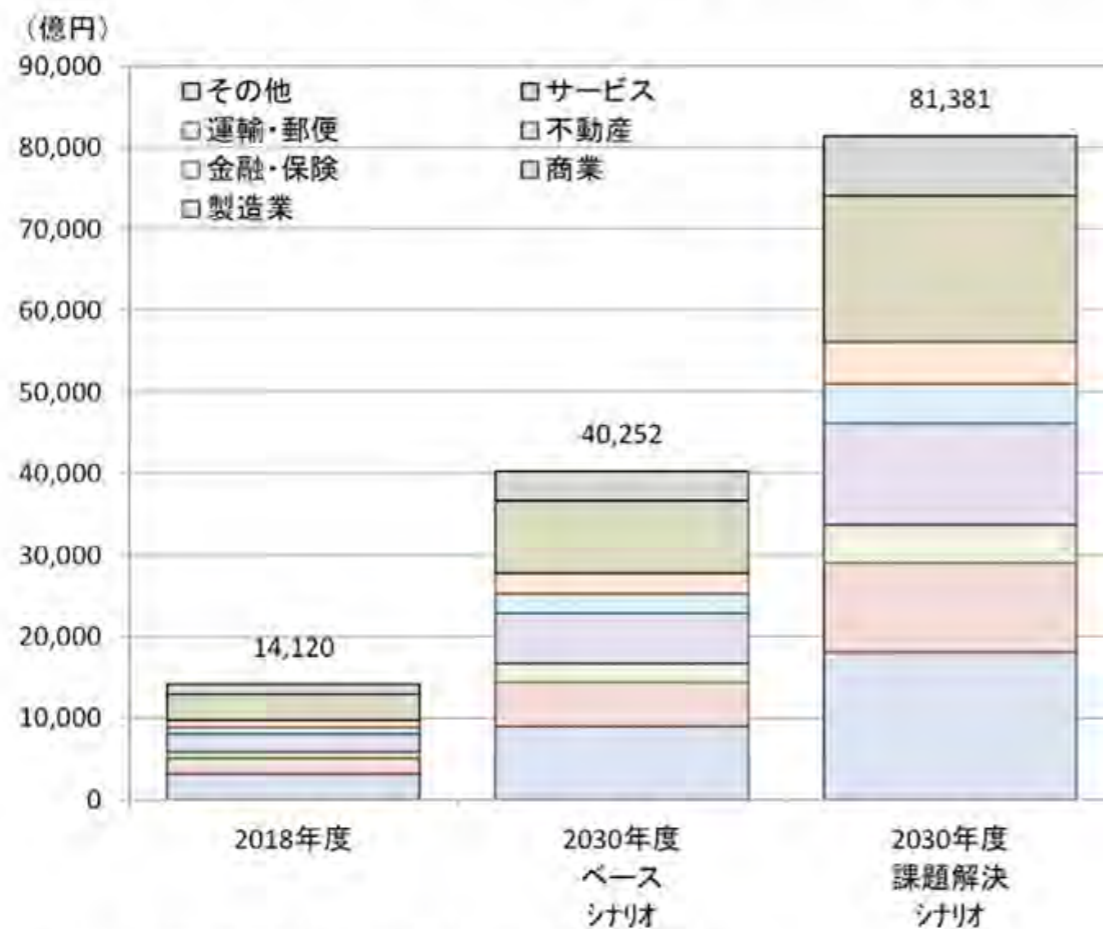
成長の課題となる点としてシェアリングエコノミーの認知度、法制度の整備、トラブル等の安全面における不安等が挙げられた。(詳細は後述)



シェアリングエコノミーの市場

- 既存産業への経済波及効果は18年度で1兆4,000億円
- 30年で8兆円。製造業、不動産、サービス業に大きく影響

シェアリングエコノミーサービスを通じて個人が得た収入から製造業やサービス業等の既存産業へ及ぼす経済波及効果（各産業の生産額の増加額）は18年度で1兆4,120億円、30年度課題解決シナリオでは8兆1,381億円であり、シェアリングエコノミーの成長は既存産業へもかなり好影響を与えることが分かりました。



単位: 億円

	2018年度	2030年度ベースシナリオ	2030年度課題解決シナリオ
製造業	3,138	8,946	18,087
商業	1,894	5,399	10,916
金融・保険	815	2,322	4,694
不動産	2,160	6,159	12,451
運輸・郵便	842	2,401	4,854
情報通信	886	2,526	5,107
サービス	3,117	8,886	17,966
その他	1,268	3,613	7,306
合計	14,120	40,252	81,381

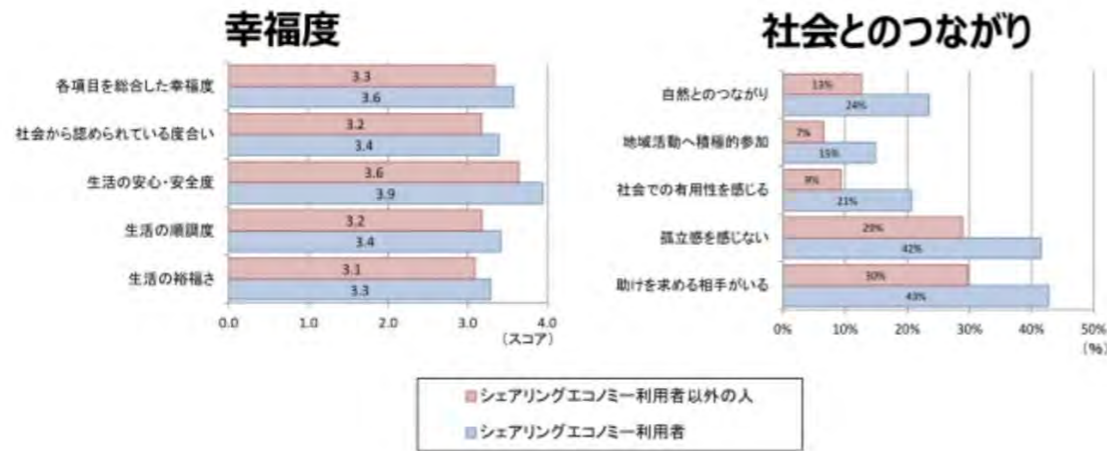
※ 産業連関分析の手法を用いて算出

シェアリングエコノミーの市場

生活の充実度や社会とのつながりなど、 シェアリングエコノミー利用者の幸福度向上にも寄与

【3】幸福度・社会とつながり等への関係

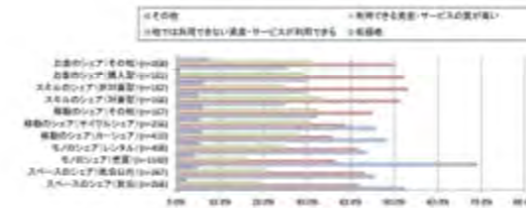
シェアリングエコノミー利用者とそうでない人を比べると、全ての項目でシェアリングエコノミー利用者の方がつながりや幸福度を感じる割合が高いことが確認されました。



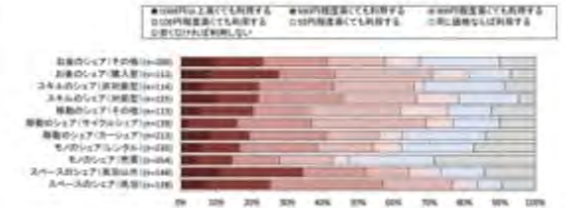
【シェアリングサービスを使用する理由】

「低価格」の回答割合が最も高いサービスばかりではなく、どのサービスでも「他では利用できないサービスが利用できる」という理由の回答割合が高い。その回答者のうち企業が提供する類似サービス（民泊の場合はホテルや民宿、対面型のスキルシェアであれば家事代行サービス等）に比べて高価格でも利用するかを尋ねたところ、モノのシェア（売買）以外は半数以上が高価格でも利用すると回答しました。よって、安いからシェアサービスを使うのではなく、むしろ高くても使うという人も多いことが分かりました。

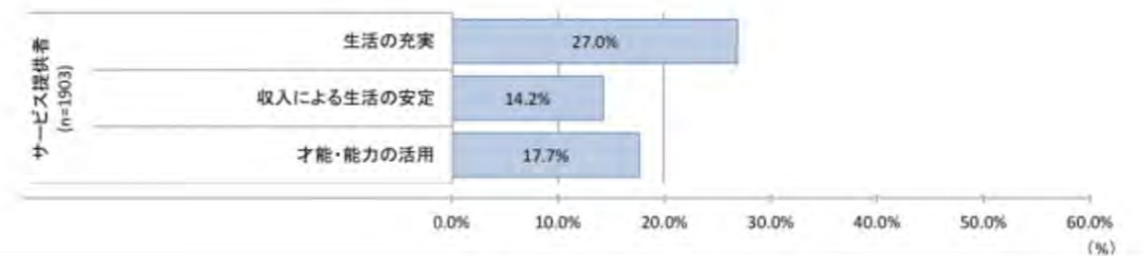
シェアサービスを使用する理由



類似の企業サービスより高価格でも利用する割合



さらにサービス提供者がサービスを使用する理由として「生活の充実」を回答した割合が最も高い結果となりました。



1-2「シェアリングエコノミーのサービス」の認知①（対象:全員）

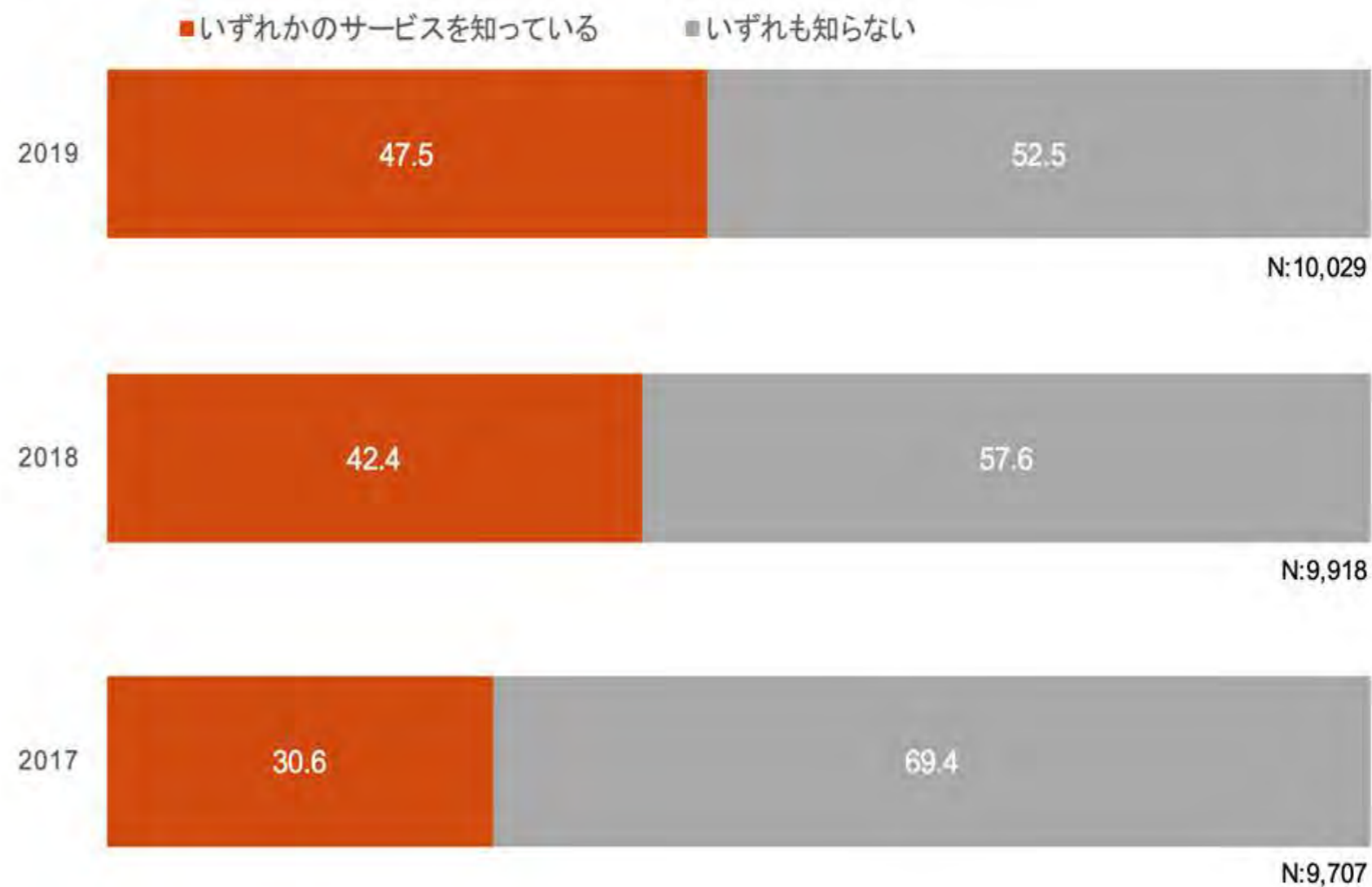
47.5%

P.6に掲載の「シェアリングエコノミー」の定義およびサービスのカテゴリーを説明した上で、あらためて認知を聞くと、

「何らかのシェアリングエコノミーのサービスを知っている」と回答した、つまりサービスの認知度は全体の47.5%。

ただし、認知度は毎年上昇しているが、前回調査より伸び率は鈍化している。

（質問）あなたはシェアリングエコノミーをご存知ですか？



1-2「シェアリングエコノミーのサービス」の認知③ 年代別内訳(対象:シェアリングエコノミー認知者)

「シェアリングエコノミーのサービスのいずれかを知っている」と回答した人の年代別内訳をみると、20代～70代の間でそれほど大きな差は見られなかった。

認知者のうち、60代および70代の占める割合については、毎回増加する傾向にあることが特徴として見てとれる。

シェアリングエコノミーのサービス認知者の年代別内訳

